

大会主題

学びと暮らしを支える豊かなことばと心を育む教育をめざして  
—自分らしく生きるための支援—

標記の大会を下記のように開催いたします。言語・聴覚・発達障害児教育の充実のため、多数のご参加をいただきたく、ご案内申し上げます。

平成30年 5月

東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会静岡大会  
実行委員長 大橋 均（浜松市立可美小学校長）

## 1 趣 旨

特別支援教育は「障害種や程度に応じた教育」から「一人一人のニーズに応じた教育」への変換でした。そして、さらにインクルーシブの理念に基づき、居住地区における障害の有無にとらわれない共同学習・共同生活へとステージが移行しました。

一人一人に寄り添った暮らしやすい環境を整えることは、社会の役割であり、施設・設備などのハード面だけでなく「心のユニバーサル化」のようなソフト面の充実が不可欠です。子どもたちの学びや暮らしを支えるために、私たちは教育のフィールド内にとどまらず、家庭や医療・福祉などの他の専門機関とつながりをもつことが求められています。

「ことば」や「きこえ」、「発達のアンバランス」などによって、学習や対人関係づくりに困難を生じ、能力や個性を発揮できにくい子どもたちに寄り添い専門的な理論に基づいた指導を行うとともに、他機関との連携により、子どもたちが自分らしさを発揮できるようにという思いから、大会主題を設定しました。

本大会では、指導実践の報告・協議と各分野の専門家である講師の先生方による助言により、東海四県の先生方が自分自身の指導を振り返り、より広い視野で子どもたち一人一人のニーズに合った支援のあり方を考えていきます。

2 期 日 平成30年8月22日（水） 10:00～16:00

3 会 場 浜松市浜北文化センター  
〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢291番地の1 TEL (053) 586-5151

4 参加者 教育関係者・保護者・特別支援教育に関心のある方

5 参加費 3,000円（保護者・学生・講演のみの参加 1,000円）

6 主 催 東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究会  
岐阜県言語・聴覚・発達障害児教育研究会  
愛知県言語・聴覚障害児教育研究会  
三重県言語・聴覚・発達障がい研究会  
静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

7 後 援 静岡県教育委員会  
浜松市教育委員会  
磐田市教育委員会  
湖西市教育委員会  
袋井市教育委員会  
静岡県身体障害者福祉会  
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会  
静岡県ことばと心を育む会

## 8 日程

9:30 10:00 10:30

12:00

13:30

16:00

受付	全体会	講演	昼食 分科会打ち合わせ 四県事務局連絡会議	分科会
----	-----	----	-----------------------------	-----

## 9 講演

演題 「**発達障害のある子どもたち - 将来を生き抜くための力 -**」  
講師 **品川 裕香 さん** (教育ジャーナリスト)

※要約筆記、手話通訳があります。

## 10 分科会

### 第1分科会「発音に誤りのある子ども」

■助言者 **中村 哲也さん** (聖隷クリストファー大学)

	提案者	テーマ	内容
愛知	早川 直美さん 名古屋市立 成章小学校	構音に誤りがあるA児、 B児への指導 ~児童を支援する方々との 連携を通して~	A児は、多くの音が声門破裂音に代償されており、医療機関と連携しながら、構音の獲得に向けて取り組んだ。B児は、正しい音で話したい気持ちが強く、保護者や在籍校担任との話し合いを深めながら授業を進めた。二つの実践を報告する。
静岡	菊地 由美さん 静岡市幼児言語教室 (静岡市立麻機小内)	幼児への構音指導の アプローチ	“ことば”自体を覚え始めの文字を知らない幼児期の子どもに対する、正しい音の獲得を目指す指導員のあり方、かかわりと伝え方を考える。

### 第2分科会「ことばの育ちがゆっくりな子ども」

■助言者 **石野 千鶴さん** (ことばの相談室いちご)

	提案者	テーマ	内容
三重	村島 まゆみさん 鈴鹿市立 創徳中学校	日々の生活に寄りそう中で 育つ子どものことば ~得意を伸ばし、 苦手を受け止める~	中学1年生から始まった支援。A児の困り感と将来の夢、保護者の願いと心配にどうかかわっていくのか。 学級担任や教科担当を支援の輪に取り込み、進路を開拓していくまでの実践を報告する。
岐阜	加藤 美香子さん 瑞浪市立 日吉小学校	身の回りの様子や自分の 気持ちを意欲的に伝え ようとする子を目指して	学級や家庭でのできごとや様子をうまく伝えられずに「忘れた」と答える児童、思いを聞かれても「楽しかった」以外の表現が難しい児童に対して、身近な言葉や気持ちを表す言葉などの語彙を増やし、状況や気持ちを伝えられるようにするために行った実践を報告する。

### 第3分科会「ことばがつまる子ども」

■助言者 **谷 哲夫さん** (聖隷クリストファー大学)

	提案者	テーマ	内容
愛知	杉田 かおりさん 刈谷市立 小高原小学校	吃音と向き合い、 上手につきあうために ~家族で向き合うA児・B児と仲 間で話し合って考えるC児・D児 とのかかわりを振り返って~	高校に進学したA児から手紙が届いた。悩みを乗り越えていく姿があった。B児は家族とともに向き合っている。C児とD児は同じ学級になって初めて自分以外の吃音者と接している。4人の姿から、吃音と上手につきあう方法を考察する。
岐阜	斎藤 成さん 下呂市立 下呂小学校	個別指導の中で 見えてきたもの	「吃音があるから、話すことに抵抗がある」として通級をしているが、原因は本当に吃音なのか？個別指導の利点を生かして児童の実態をとらえ、本当につけたい力は何かをさぐり続けた1年半の実践を紹介する。

#### 第4分科会「きこえに心配がある子ども」

■助言者 上田 裕子さん（静岡県立総合病院）

	提案者	テーマ	内 容
岐 阜	木下 裕史さん 岐阜市立 明郷小学校	自分のことばで自分の障がい を周囲に伝えることができる子 を目指して	難聴に対する自己理解も、人前で話すことも難しかったA児が、 全校児童にきこえの状態や依頼したい支援を伝え、卒業式で「ぼく は、これからも自分の聴こえのことを自分で話すことをがんばりた いです。」と語るに至った4年間の指導の過程を発表する。
愛 知	宮崎 由佳さん 名古屋市立 牧野小学校	自分の聞こえについて理解 を深め、適切に伝えることがで きる児童の育成	本校難聴通級指導教室に通うA児は、自分の聞こえ方 方について適切に仲間に伝えることが難しく、仲間と のかかわりの中で自分の考えや気持ちを一方的に伝 えてしまう。自立活動や在籍学級での学級活動につい ての実践を中心に報告する。

#### 第5分科会「行動に心配がある子ども」

■助言者 夏目 徹也さん（焼津市立大井川南小学校）

	提案者	テーマ	内 容
岐 阜	南谷 みどりさん 岐阜市立 徹明さくら小学校	自己肯定感を高める 指導のあり方	岐阜県内で初めてトワイライト通級（中学生の夜間 通級）を実施した実践から、通級することに抵抗があ った生徒が意欲的に通い、自分の気持ちを見つめ伝え る活動を通して自己肯定感を高めていった取り組み について報告する。
三 重	佐藤 美由紀さん 川越町立 川越北小学校	「早く高校生になりたい！」 ～友だちとのかかわりに 自信が持てるように～	ほつとルームでたくさん子どもたちと出会う中で、私には 数えきれないほどの学びと気づきがあった。A児とともに進め たSST学習を3つのキーワード（自己の肯定・認知・ふり返し） にあてはめて、行動に心配のある子どもたちのよりよい支援を みなさんとともに考えたい。

#### 第6分科会「学習に心配がある子ども」

■助言者 後藤 隆章さん（横浜国立大学）

	提案者	テーマ	内 容
三 重	平野 雅也さん 四日市市立 桜中学校	「困っていない」から 「できるようにになりたい」へ ～できることを積み重ね、 意欲の向上を目指した指導～	できないことを認めず、避けたりごまかしたりして いた生徒が「できるかもしれない」「少しできた」と 思える経験を積み重ね、学習への意欲を見せ始めた指 導の実践を報告する。
静 岡	大石 康二さん 吉田町立 自彊小学校	個々の困難さを緩和・ 改善するためのアプ ローチ	通常学級に在籍している児童の中には、学習に対して様々な困難 さを抱えている児童が多い。通級指導教室在籍児童への支援や指導 実践を紹介するとともに、通級指導を受けていない困難さを抱えた 児童に対して、通常学級への働きかけや支援方法など自分自身の実 践を交えて紹介する。

#### 第7分科会「つながり」

■助言者 内山 敏さん（浜松市発達支援センター）

	提案者	テーマ	内 容
愛 知	水野 達哉さん 江南市立 布袋小学校	子どもの幸せを願う 通級担当者たちの取り組み ～共に学び共に育つ人的な 環境整備を通して～	通級する子どもの周囲にいる担任や在籍学級や在籍学 校の子ども、卒業生、専門機関、保護者、担当者と連携 を図り、通級する子どもの生活の質を高めるために、巡 回指導の利点を生かす、合理的配慮をする視点から「つ ながり」を考え、担当者たちの実践を報告する。
静 岡	佐藤 久美子さん 佐藤 るり子さん 伊東市立 西小学校	通級指導教室「杉の子」の 教室経営 ～みんながって、みんないい を実感するために～	本教室は伊東市唯一の発達通級指導教室。子どもた ちが今いる場所で自分らしく輝けるように、私たちは 発達凸凹を埋めるのではなく、凸凹をその子の個性と してとらえて、日々子どもたちの指導を行っている。 その日々の様子の紹介と、成果・課題を提案する。

### 11 大会事務局

〒432-8051 浜松市南区若林町1748番地 浜松市立可美小学校 通級指導教室内  
事務局 白井有希乃

TEL: 053-447-0043 FAX: 053-447-8314  
E-Mail: kami-e@city.hamamatsu-szo.ed.jp

## 1.2 参加申し込み方法

郵便局に備え付けの払込取扱票の通信欄に以下のことを明記して、**7月20日(金)**までにお振り込みください。振り込み手数料はご負担いただきますようお願いいたします。半券(郵便振替払込請求書兼受領証)が参加票となりますので、参加者が複数の場合でもお一人ずつお振り込みください。

なお、参加票は、資料と引き替えになりますので、当日必ずご持参ください。

口座記号番号	00830-8-154406
加入者名	東海四県 静岡大会 実行委員会

払込取扱票		振替払込請求書兼受領証	
00	口座記号・番号はお間違えないよう記入してください。	振替払込請求書兼受領証	
口座記号	口座番号(右詰めで記入)	金額	千:百:十:万:千:百:十:円
00830	8 154406	¥3000	
加入者名	東海四県静岡大会実行委員会	金額	千:百:十:万:千:百:十:円
加入者名	東海四県静岡大会実行委員会	金額	¥3000
保護者・学生・講演のみの参加は¥1000		おなまえ	〇〇県 静岡 太郎
①県名 ②所属(保護者の方はお子さんの学校名)		依頼人	静岡 太郎
③教職員・保護者・学生・その他		料金額	円
④参加希望分科会番号 第1希望( ) 第2希望( )		備考	
⑤手話通訳・要約筆記が必要な方は、その旨お書きください。			
〇〇〇-〇〇〇〇			
〇県▽市△町			
静岡 太郎			
(ご連絡先電話番号 〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇〇〇)			
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)			
これより下部には何も記入しないでください。			

※会場に余裕がある限り当日参加を受け付けますが、できる限り事前の申し込みをお願いします。

## 1.3 昼食について

会場での弁当の販売は行いません。各自でご準備いただくか、当日配布します「昼食マップ」を参考に昼食をお取りください。なお、会場には飲食ができる部屋を準備しておりますので、ご活用ください。

## 1.4 台風等接近による大会開催可否にかかわる緊急の連絡について

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会のホームページに掲載しますので、当日、午前6時以降に各自でご確認いただきますようお願いいたします。<http://www.shizugenken.jp/>

## 1.5 会場案内

### ■公共交通機関使用の場合

- ・JR浜松駅から徒歩1分、遠州鉄道新浜松駅にて遠州鉄道に乗車(22分)
- 遠州鉄道浜北駅から徒歩5分

### ■自家用車使用の場合

- ・東名高速道路  
浜松IC・浜松西ICから約20分
  - ・新東名高速道路  
浜松浜北ICから約15分
- ※駐車場は約300台駐車可能です。(無料)

